

令和8年度着手

県営 ながせ 長瀬地区 土地改良事業計画書

(経営体育成基盤整備事業)

愛 知 県

目

次

第1章	目的	1	6	級地別土地利用区分	23
第2章	地域及び地積	1	7	土地配分計画	23
第1節	地域	1	第3節	用水計画	24
第2節	地積	1	1	計画基準年	24
第3章	現況	2	2	計画かんがい方式	24
第1節	気象	2	3	計画用水系統	24
1	一般気象	2	4	計画用水量	24
2	特殊気象	3	5	水源計画	26
第2節	土地状況	4	第4節	排水計画	28
1	地形、土壌及び浸食の程度	4	1	計画基準雨量	28
2	土地分類	4	2	計画排水方式	28
3	土地利用の状況	5	3	計画排水系統	28
4	土地所有の状況	5	4	計画排水量	28
第3節	水利状況	6	5	排水対策	28
1	用水状況	6	6	たん水検討	30
2	排水状況	8	第5節	道路計画	30
3	河川状況	10	1	道路及び索道	30
第4節	道路概況	11	2	路線配置図	30
1	道路概況	11	第6節	農用地造成計画	32
2	主要道路一覧表	11	第7節	洪水調整計画	32
第5節	地域農業の概況	13	第8節	干拓計画	32
1	産業別就業人口	13	第9節	農用地整備計画	32
2	経営耕地広狭別農業経営体数	13	1	区画整理	32
3	主要家畜頭数	14	2	暗渠排水	34
4	主要作物作付状況	15	3	客土	34
5	農業の動向	16	4	農地保全	34
第6節	地域環境の概況	17	第10節	老朽ため池改修計画	34
1	特に配慮すべき生物環境	17	第5章	主要工事計画	34
2	特に配慮すべき生物以外のもの	17	第1節	用水施設	34
第4章	一般計画	18	1	貯水池	34
第1節	事業計画の要旨	18	2	頭首工	34
1	要旨	18	3	揚水機	35
2	事業別面積	18	4	用水路	35
第2節	営農計画及び土地利用計画	19	5	その他かんがい施設	35
1	営農計画の概要	19	第2節	排水施設	35
2	土地利用区分	19	1	排水水門	35
3	作付方式	20	2	排水機	35
4	生産計画	21	3	排水路	35
5	労働改善計画	22	4	その他排水施設	36

目

次

第3節	道路及び索道	36
1	道路	36
2	索道	36
第4節	農用地造成	36
第5節	洪水調整施設	36
第6節	干拓施設	36
第7節	農用地整備施設	37
1	区画整理	37
2	暗渠排水	37
3	客土	37
4	除礫	38
5	農地保全	38
第8節	老朽ため池改修施設	38
第6章	附帯工事計画	38
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	39
1	工期	39
2	工事の年度割予定	39
第8章	環境との調和への配慮	39
1	配慮の対象	39
2	配慮の方法	39
第9章	管理の要領	39
第10章	換地計画の概要	40
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	40
第2節	換地区の設定	40
1	換地区の名称、所在、面積	40
2	換地区を設定する理由	40
第3節	換地計画樹立の基本方針	40
1	従前の土地の地積の基準	40
2	用途別予定地積	41
3	農用地集団化の方針	41
4	非農用地換地の方法	42
第4節	土地の評価及び精算の方法	42
1	評価の方法	42
2	清算の方法	42
第5節	換地計画樹立の年度計画	42
第6節	換地処分 of 時期に関する特則	42
第11章	事業費の総額及び内訳	43
第12章	効用	44

第13章	関連する事業	46
第14章	現況・計画平面図	46
1	現況平面図	47
2	計画平面図及び土地利用計画図	47
3	主要構造図	47

第1章 目的

本地区は、愛知県岡崎市の西部に位置し、1級河川矢作川の右岸に広がる面積約66haの農業地帯であり、水稻を中心とし小麦、大豆等を組み合わせた営農が展開されている。

地区内は10a区画に整備されているものの、小区画であり、農道も狭小であることから、大型機械導入及び効率的な営農の妨げとなっている。また、用排水路の老朽化が著しく水管理や維持管理に多大な労力を費やしているとともに、漏水により、農業用水の確保に支障が生じるなど営農に支障をきたしている。

このため、本事業による区画整理や農道、用排水路を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農地中間管理機構を介して担い手への農地集積の加速化を図り、本地域の豊かで競争力ある農業の実現に資するものである。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地域
経営体育成基盤整備事業	岡崎市小針町、橋目町、北野町、宇頭町、西大友町

第2節 地積

(令和8年3月現在)

(第2表)

市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
岡崎市	58.6	2.2	-	-	5.7	66.5	登記簿面積
合計	58.6	2.2	-	-	5.7	66.5	

第3章 現 況

第1節 気 象

1 一般気象

(第3表-1)

観測所名	岡崎観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	H. 3～R. 2	4 月～9 月	1 0 月～3 月		
平 均 気 温 (℃)		22. 0	9. 0	15. 5	
降 水 量	平 均(mm)	963	545	1, 508	
	基準年(mm)	1, 219	485	1, 704	基準年は昭和24年
降 水 日 数	平 均(日)	60	44	104	
	基準年(日)	45	25	70	基準年は昭和24年
根 雪 期 間		一月一日	～ 一月一日	(- 日間)	
無 霜 期 間		3月22日	～ 11月29日	(253 日間)	名古屋地方気象台
最 多 風 向		NW	最大風速 (風 向)	18. 0 m/s (NW)	最多風向発生時期 12 月 ～ 4 月 最大風速発生年月日 平成 3 年 2 月 25 日

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備 考
岡崎観測所																
観測期間	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	
昭和51年 ～ 令和6年																
最大日雨量 (mm)	268.0	R5. 6. 2	1/926	263.5	H20. 8. 29	1/730	179.0	H12. 9. 12	1/14	159.0	S57. 8. 3	1/7	155.5	R4. 9. 23	1/6	
最大時間雨量 (mm)	146.5	H20. 8. 29	1/1000 以下	78.0	H23. 9. 20	1/44	67.5	R4. 7. 26	1/21	55.5	R2. 7. 25	1/9	55.0	H12. 9. 12	1/8	
最大4時間雨量 (mm)	252.5	H20. 8. 29 0:00～	1/1000 以下	141.0	H12. 9. 11 22:00～	1/34	112.0	R5. 6. 2 10:00～	1/10	108.0	H23. 9. 20 2:00～	1/9	106.0	H6. 9. 17 19:00～	1/8	
最大連続雨量 (mm)	447.5	H20. 8. 28 ～H20. 8. 30	1/448	302.5	R5. 5. 29 ～R5. 6. 3	1/14	295.0	H5. 6. 29 ～H5. 7. 15	1/12	295.0	H12. 9. 11 ～H12. 9. 12	1/12	286.0	H2. 9. 13 ～H2. 9. 20	1/10	
最大連続干天日数 (日)	40.0	S61. 1. 5 ～S61. 2. 13	1/76	36.0	H9. 10. 8 ～H9. 11. 12	1/37	32.0	H11. 12. 6 ～H12. 1. 6	1/18	31.0	H7. 11. 28 ～H7. 12. 28	1/15	31.0	H10. 12. 9 ～H11. 1. 8	1/15	(5位と同じ日数) H21. 8. 12 ～H21. 9. 11

第2節 土地状況

1 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地 目	田						畑 ・ その他								受益地標高(m)		備考
	傾斜区分	1/1,000	1/1,000	1/100	1/20	1/11.5	計	3°	3°	8° ～15°			15°	20°	計	最高	最低	
		以下	～ 1/100	～ 1/20	～ 1/11.5	～ 以上		以下	～ 8°	8° ～10°	10° ～15°	小計	～ 20°	以上				
経営体育成 基盤整備事業	面 積 (ha)	58.6	-	-	-	-	58.6	2.2	-	-	-	-	-	-	2.2	22.7	13.8	
	比 率 (%)	100	-	-	-	-	100	100	-	-	-	-	-	-	100			

(第4表-1-2)

項 目 土壌統（区）名	土壌統（区）区分一覧表								面 積(ha)		備考		
	土壌断面							堆積様式	母材	事 業 名			
	色	腐植	礫層	酸 化 沈殿物	土 性					泥炭層 黒泥層 及び グライ層		経営体育成基盤整備事業	計
					表土	下層土							
					一層	二層	三層						
寺津統 (T)	青灰	なし	なし	糸根、管状 有～含	壤質	壤質	壤質	作度または作度直 下からグライ	水積	非固結 水成岩	8.8	8.8	田
開正統 (K)	灰/青灰	なし	なし	糸根、管状 有～富	壤質	壤質	壤質	80cm以上の心土か らグライ	水積	非固結 水成岩	19.7	19.7	田
針曾根統 (Hz)	灰	なし	なし	糸根、管状 有～富	壤質	壤質	壤質	80cmまでには なし	水積	非固結 水成岩	19.0	19.0	田
橋目統 (Hm)	黄褐	なし	なし	糸根、点状 有～含	壤～ 強粘質	粘～ 強粘質	粘～ 強粘質	80cmまでには なし	洪積	非固結 水成岩	11.1	11.1	田
三和統 (M)	黄灰	なし	なし	なし	壤質	壤質	壤質	なし	水積	非固結 水成岩	2.1	2.1	畑
西尾統 (N2)	黄褐	なし	なし	なし	壤質	壤～ 粘質	壤～ 粘質	なし	洪積	非固結 水成岩	0.1	0.1	畑
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60.8	60.8	

2 土地分類

該当なし

3 土地利用の状況

(第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						原 野	山 林	採 草 放 牧 地	そ の 他	計	備 考
		水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	果 樹 園 (ha)	茶 園 (ha)	樹 園 地 其 他 (ha)						
経営体育成基盤整備事業	岡崎市	58.6	1.5	-	0.7	-	-	-	-	-	5.7	66.5	

4 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名	所有別 区分	個人有地等	国有地	県有地	市有地	計	備 考
経営体育成基盤整備事業	面 積 (ha)	61.5	-	-	5.0	66.5	
	受益者数 (人)	251	-	-	-	251	
	筆 数 (筆)	951	-	-	184	1,135	
	権 利 関 係	-	-	-	-	-	
	備 考 (関 係 戸 数)	251	-	-	-	251	

第3節 水利状況

1 用水状況

西部団地は、明治用水を水源とする上高根用水掛け、北部・南東部団地は、矢作川用水を水源とする長瀬用水、長瀬1号用水及び北野幹線水路掛けである。各農地へはパイプラインで配水されている。近年、パイプラインの破損による漏水が目立ち、一部の区域では水圧が低く取水に苦慮している状況である。

(1) 用水系統

(次頁 現況用水系統図参照)

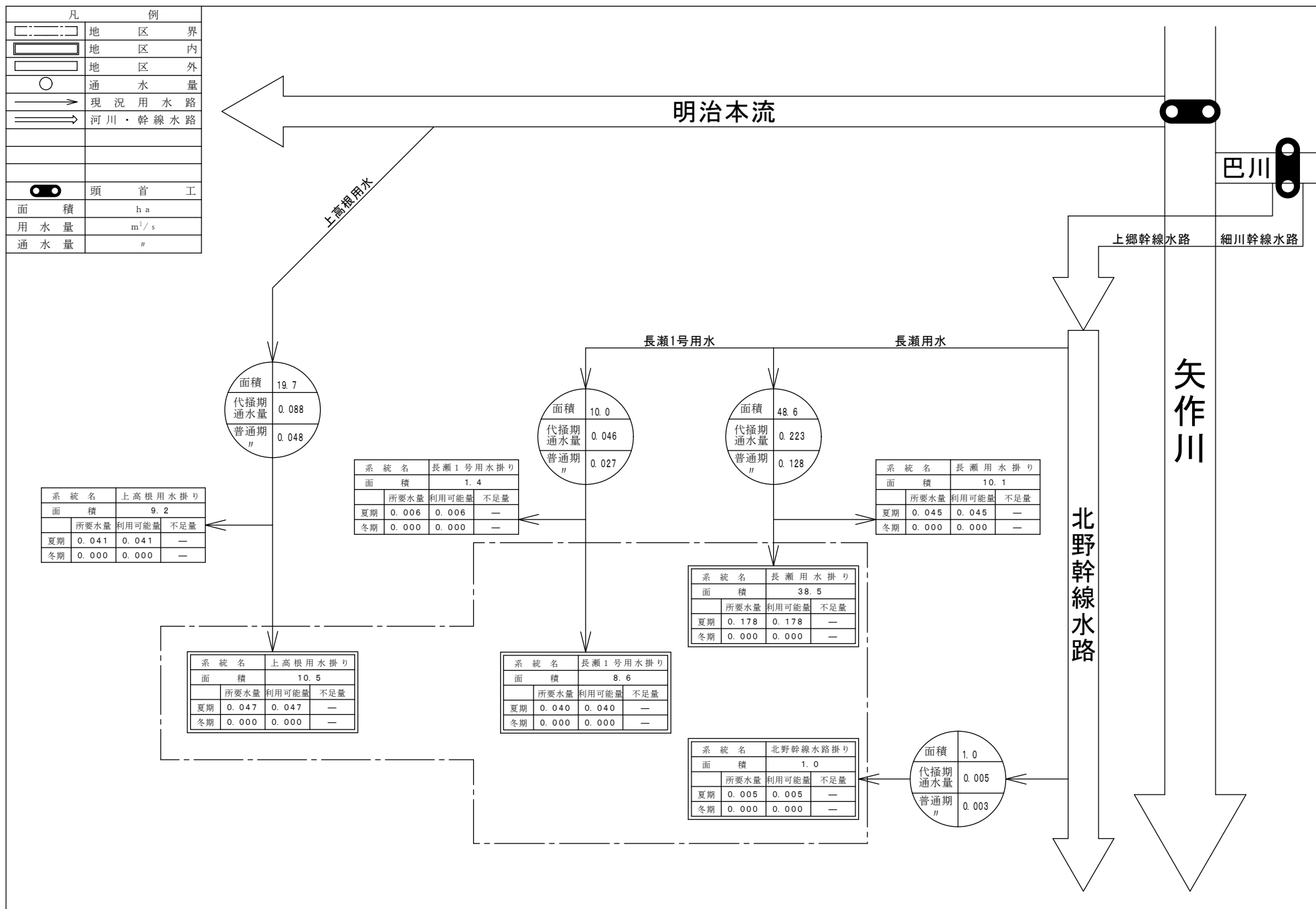
(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項 目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権		延べ取水量		備 考
		500ha以上		100～500ha		100ha未満										
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	
経営体育成基盤整備事業	貯水池	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	井堰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	自然取入口	-	-	-	-	2	79.3	2	79.3	-	0.362	-	-	-	0.362	明治用水頭首工(上高根用水掛り)及び細川頭首工(長瀬用水掛り外)
	揚水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計	-	-	-	-	2	79.3	2	79.3	-	0.362	-	-	-	0.362	

現況用水系統図



(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項 目 施設名	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年又は更新年	改修を必要 とする理由	備 考
経営体育成 基盤整備事業	貯 水 池	-		-	-	-	-	
	井 堰	-	-	-	-	-	-	
	自 然 取 入 口	-	-	-	-	-	-	
	揚 水 機	-	-	-	-	-	-	
	用 水 路	1	48.1	パイプライン	φ75～φ350	不明	老朽化	長瀬用水掛り、長瀬1号用水掛り、北野幹線水路掛り
	そ の 他	-	-	-	-	-	-	
	計		48.1					

(3) 用水に関する被害状況

該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし

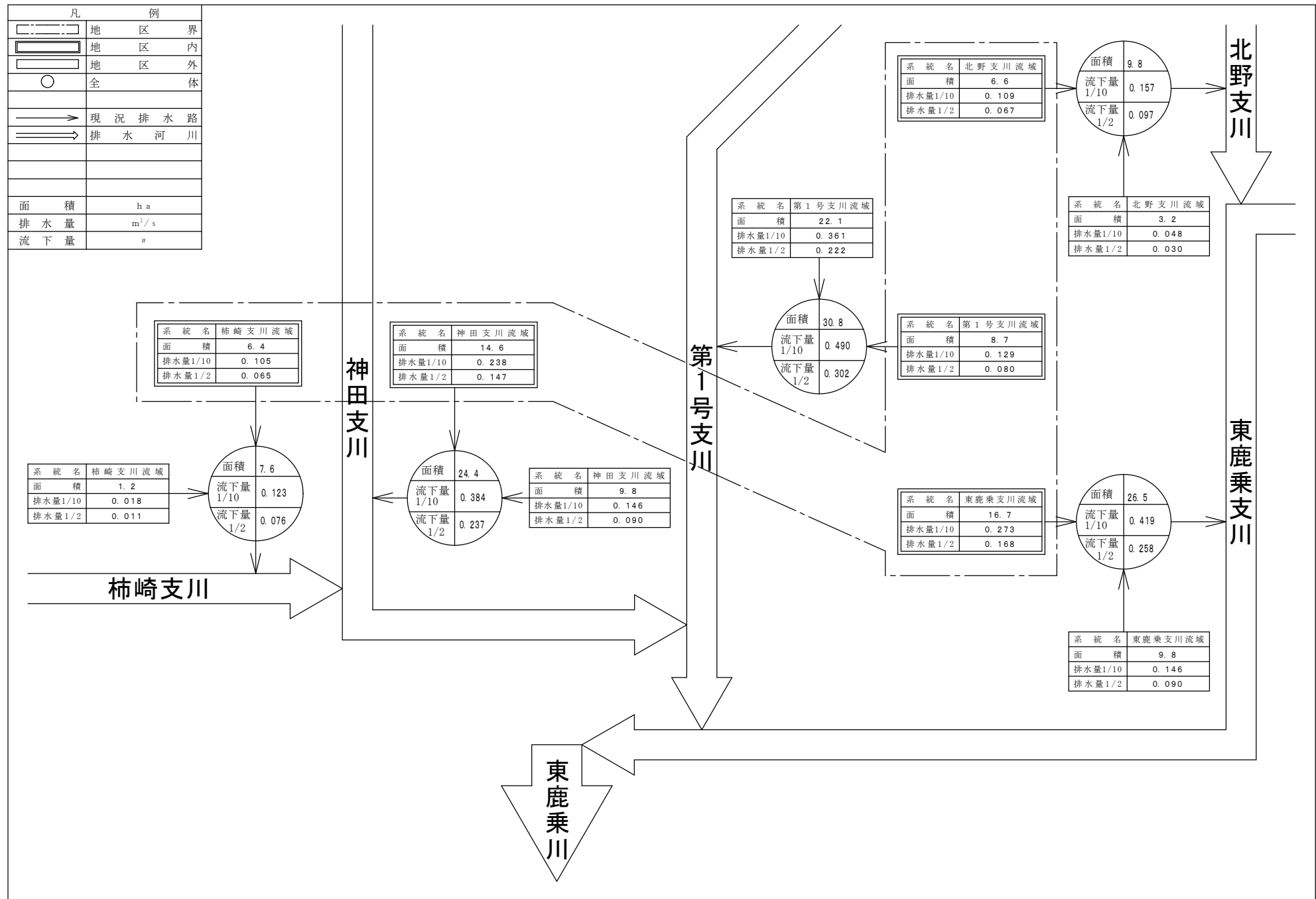
2 排水状況

排水は一級河川矢作川水系鹿乗川流域であり、各農地からは末端排水路を経て、東鹿乗支川、北野支川、第1号支川、神田支川及び柿崎支川から東鹿乗川に排水されている。末端排水路は老朽化の進行、断面不足による排水不良が生じており、作物生産、農作業の支障となっている。

(1) 排水系統

(次頁 現況排水系統図参照)

現況排水系統図



(2) 排水施設
(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項 目 施設名		排 水 面 積						計		排水慣行 (m^3/s)	現況 排水能力 (m^3/s)	備 考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満						
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
経営体育成基盤整備事業	自然	排水路	－	－	－	－	1	[66.5] 91.7	1	[66.5] 91.7	－	1.246	[] は地区内分
		水 門	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
	機械	排水機	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
		水門及び排水機	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
		排水路及び排水機	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
	計		－	－	－	－	1	[66.5] 91.7	1	[66.5] 91.7			

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名	項 目 施設名		施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模 (mm)	新設年又は 更新年	改修を必要 とする理由	備 考
経営体育成基盤整備事業	自然	排水路	支線排水路	60.8	組立柵渠 U字溝	400×400 U300	不明	老朽化・断面不足	
		水 門	-	-	-	-	-	-	
	機械	排水機	-	-	-	-	-	-	
		水門及び排水機	-	-	-	-	-	-	
		排水路及び排水機	-	-	-	-	-	-	
	合 計			60.8					

(3) 排水に関する被害状況
該当なし

3 河川状況
該当なし

第4節 道路概況

1 道路概況

道路は、本地区の中央部、北部団地と南東部団地の間を主要地方道名古屋岡崎線が横断し、南東部団地の南には国道1号が近接している。地区内の道路は全て市道認定されており、一級市道が1路線、二級市道が3路線地区内を縦横断している。周辺には三菱自動車工業岡崎製作所の他、自動車関連企業が立地しており車両通行が多い地域である。地区内道路は幅員が狭く、一般車両の通行も多いため農作業の支障となっている。

(次頁 現況道路配置図参照)

2 主要道路一覧表

(第6表)

NO.	路 線 名	管理区分	延長 (m)	幅 員 (m)		構 造	改修の要否	備 考
				全幅	有効			
1	市道 北野宇頭線	岡崎市	1,560	12.00	7.00	アスファルト舗装	否	

現況道路配置図

凡	例
-----	地区界
———	幹線道路
———	現況道路



第5節 地域農業の概況

1 産業別就業人口

(第7表-1)

項 目	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建 設 業 (人)	製 造 業 (人)	水熱電 道供ガ 業給ス (人)	通運 信 業輸 (人)	飲小卸 食売 店業売 (人)	保金 険 業融 (人)	不 動 産 業 (人)	サ ー ビ ス 業 (人)	公 務 (人)	そ の 他 (人)	備 考
市町村名																
岡崎市	208,349	2,659	81	8	31	12,960	68,885	1,008	13,216	29,473	4,297	3,306	67,900	4,525	-	令和2年度 国勢調査
比率(%)	100.0	1.3	0.0	0.0	0.0	6.2	33.1	0.5	6.3	14.1	2.1	1.6	32.6	2.2	-	

2 経営耕地広狭別農業経営体数

(第7表-2)

区 分	農 業 経 営 体 数 (経営体)	経営耕地広狭別農業経営体数(経営体)										1 経営体当り平均 農用地面積(ha)				備考
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 以上	田	畑	樹 園 地	草 地	
市町村名																
岡崎市	1,101	44	386	419	125	43	25	16	16	7	20	1.6	0.2	0.4	3.0	
比率(%)	100.0	4.0	35.0	38.0	11.4	3.9	2.3	1.5	1.5	0.6	1.8	30.8	3.8	7.7	57.7	

(出典：2020年農林業センサス)

3 主要家畜頭数

(第7表-3)

項 目 市町村名	主要家畜								備考
	乳用牛		肉用牛		豚		家さん		
	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営 体数 (経営体)	
岡崎市	440	7	1,401	12	X	2	186	8	2020年農林業センサス
100経営体当り数量 (頭, 100羽)	6,286		11,675		X		2,325		「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
飼養経営体数 割合 (%)	0.6		1.1		0.2		0.7		飼養経営体数割合は（第7表－2）の総農業経営体に占める割合とする。

4 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名	岡崎市	作付割合 (%)	備 考 ※総耕地面積は2020年農林業センサスに情報がないため、第67次東海農林水産統計年報の値を採用
総耕地面積 (ha)	3,180		
区 分 作物名	作付面積 (ha)		
水稲	971	47.2	2020年農林業センサス 作付面積は、経営耕地面積のうち販売目的作付け（栽培）した作物の類別作付（栽培）面積である。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。 ※作付面積が公表されていない作物があるため、各作物の作付け割合の合計は100%にならない。
麦類	X	X	
雑穀	X	X	
いも類	X	X	
豆類	417	20.3	
工芸作物	X	X	
野菜類	52	2.5	
果樹類	X	X	
花き類・花木	X	X	
その他の作物	29	1.4	
計	2,059	(100)	

5 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農業経営体			土地			主要作物			主要家畜			地域指定等	備 考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A		
変化の状況 (C年を100とする指数)	農業経営体数	75	53	耕地	91	80	水稻	100	95	乳用牛	105	74	農振整備計画 昭和48年指定 昭和49年認可 野菜指定産地 昭和41年指定 冬春きゅうり 昭和49年指定 冬春なす 果樹濃密団地 平成18年指定 なし ぶどう いちじく 酪肉近代化 平成18年指定	A…令和2年 B…平成27年 C…平成22年 農業センサス値
	個人経営体数	74	53	田	93	83	麦類	157	152	肉用牛	X	192		
	団体経営(法人)数	117	122	畑	85	52	豆類	143	135	豚	X	X		
	団体経営(非法人)数	25	13	樹園地	75	88	野菜類	78	57	家きん	512	995		
変化の理由	農業従事者の減少、高齢化により経営体は減少傾向にある。 ただし、農地の集積や大規模化により、団体経営体(法人)は増加傾向にある。			農業経営体数の減少により、耕地面積は減少傾向にある。			水田における転作の奨励により、麦類及び豆類の作付は平成22年から平成27年の間は増加したが、平成27年より令和2年の間は微減傾向にある。 水稻及び野菜類は減少傾向にある。			乳用牛は経営体数の減少により減少傾向にある。 肉用牛及び家きんは経営体の大規模化により大きく増加している。 豚は、データが公表されていないため傾向が不明である。				X：統計数値が公表されていないために指数を求められないもの

(出典:2010年, 2015年, 2020年農林業センサス)

第6節 地域環境の概況

岡崎市は、愛知県の中央部、三河山地と岡崎平野の接点にあり、三河高原の西端に位置している。この丘陵台地の西を北から南に縦断した矢作川が、東から西に横断する形で乙川が流れる、美しい自然と景観に恵まれた地にある。また、交通は広域利便性に優れており、東海道本線といった鉄道や国道1号、国道248号、国道473号の幹線道路網により人々の生活、さらに農業生産活動にとっても非常に恵まれた地域となっている。

1 特に配慮すべき生物環境（植物、植生、動物）

(1) 植物

本市の地質は主に花崗岩と領家変成岩からなっている。花崗岩にはシイ・カシ・タブなどの広葉樹林が繁茂していたが、生活のために伐採がされるとマツ・コナラ林へと変化した。しかし、近年はマツ・コナラが病虫害のために枯れ、ソヨゴ・ツバキなどの中低木になりつつある。

一方で領家変成岩地帯には、石と砂が適度にまじりあった富栄養な土壌であるため、植物の生育は旺盛であるが、明治期になると、積極的に植林が進められたため、スギ・ヒノキ林となっている。

(2) 動物

哺乳類は、カヤネズミ、ムササビなどがみられる。

鳥類は、クマタカ、ヤマセミ、チュウサギ、ケリなどがみられる。

昆虫類については、乙川にゲンジボタルがする。また、市が保全している北山湿地や小呂湿地、岡崎自然体験の森では、ヒメタイコウチ、ハッチョウトンボ、ギフチョウなどが分布している。

魚類は、フナ、コイ、ドジョウ、カダヤシなどがみられる。

2 特に配慮すべき生物以外のもの（景観・文化財他）

市街地の景観では、岡崎城をはじめ、旧東海道の宿場の街並み、地場産業である八丁味噌の蔵並みなど歴史や産業に根差した景観が形成されている。

市街地の周辺は、大嘗祭悠紀斎田をはじめとする、農耕文化を中心とする地域の祭りや伝統行事を見ることができる。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要旨

本事業は、区画整理や農道、用排水路を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農地中間管理機構を介して担い手への農地集積の加速化を図り、本地域の豊かで競争力ある農業の実現に資するものである。

2 事業別面積

(第8表)

事業名 土地 利用区分 事業目的	経営体育成基盤整備事業												計 (ha)	備考
	水田	普通畑	牧草地	果樹園	その他	小計	水田	普通畑	牧草地	果樹園	その他	小計		
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)		
区画整理	55.3	2.3	－	0.8	－	58.4	－	－	－	－	－	－	58.4	計画平面図より求積
計	55.3	2.3	－	0.8	－	58.4	－	－	－	－	－	－	58.4	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1 営農計画の概要

計画の標準区画を50a（50m×100m）とし、農地中間管理権を利用して担い手への農地集積集団化を図り、担い手農家による大型機械の利用による低コスト営農を確立し、農業経営の安定を図るものとする。

事業後の土地利用区分は、田55.3ha、畑2.3ha、果樹園0.8haの計58.4haを計画する。作付品目は、担い手農家によって「水稻」「小麦」「大豆」「冬春なす」「いちご」「レモン」を作付けし、個人農家によって「かんしょ」「さやえんどう」「玉ねぎ」「さといも」「すいか」などの蔬菜を作付けすることで、地域の特性を生かした農業発展を目指す。

2 土地利用区分

（第9表-1）

事業名	土地利用 区分	水 田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶 園 (ha)	その他 (ha)	小 計 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
経営体育成 基盤整備事業	現況	58.6	1.5	－	0.7	－	－	60.8	－	－	5.7	66.5	
	計画	55.3	2.3	－	0.8	－	－	58.4	－	－	8.1	66.5	

3 作付方式

(第9表-2)

事業名	項目	経営 類型	土地 利用 区分	1年目												2年目												3年目												備 考	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
経営体育成基盤整備事業	現況・計画		水田																																						○・・・播種 △・・・定植 ×・・・収穫
		水稲					○	△				×																													
		小麦												○																											
		大豆																			○																				
		冬春なす	畑												○																										○
	計画	レモン	果樹園	○																																				×	
	計画	いちご	畑											○																											

4 生産計画

(第9表-3)

事業名	項 目 土地利用 区分		作物名	作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当たり 収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増減の 内訳 (t)		備 考
				現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積 増減	単位面積当り 収量増加	
経営体育成 基盤整備事業	田	表作	水稻	31.3	30.5	△0.8	54	53	514	545	31	160.9	157.0	△3.9	△4.1	0.2	※水稻の計画生産量の 計算式は下記を参照
		裏作	小麦	24.0	23.7	△0.3	41	42	463	463	-	111.1	109.7	△1.4	△1.4	-	
		表作	大豆	1.0	23.7	22.7	2	42	111	111	-	1.1	26.3	25.2	25.2	-	
	畑	表作	かんしょ	0.2	0.2	-	-	-	1,392	1,392	-	2.8	2.8	-	-	-	
		表作	さやえん どう	0.1	0.1	-	-	-	573	573	-	0.6	0.6	-	-	-	
		表作	玉ねぎ	0.4	0.5	0.1	1	1	5,237	5,237	-	21.0	26.2	5.2	5.2	-	
		表作	さといも	0.5	0.5	-	1	1	1,334	1,334	-	6.7	6.7	-	-	-	
		表作	すいか	0.1	0.1	-	-	-	2,323	2,323	-	2.3	2.3	-	-	-	
		表作	冬春なす	0.2	0.2	-	-	-	15,343	15,343	-	30.7	30.7	-	-	-	
		表作	いちご	-	0.5	0.5	-	1	4,168	4,168	-	-	20.8	20.8	20.8	-	
	果樹園	表作	レモン	0.7	0.8	0.1	1	1	1,165	1,165	-	8.1	9.3	1.2	1.2	-	
	計			[58.5]	[57.1]	[△1.4]											
				58.5	80.8	22.3	100	141									

* 作付面積欄の計で[]内は実面積、外は延作付面積

* 作付面積は本地面積

本地率

	現況	計画
田	96% →	98%
普通畑	100% →	100%
施設畑	75% →	75%
果樹園	100% →	100%

※水稻の計画生産量

	作付面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)
乾田化あり	0.6	545	3.3
〃 無し	29.9	514	153.7
計	30.5		157.0

5 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項 目 土地 利用区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当り労働投下量(hr/10a)				備 考
				区分	現況	計画	増減	
経営体育成基盤整備事業	水田	水稻	30.5	人 力	16.8	2.8	△14.0	作付面積 上段：計画 下段：[現況]
			[31.3]	機械力	5.3	1.9	△3.4	
		小麦	23.7	人 力	7.6	3.2	△4.4	
			[24.0]	機械力	4.5	2.8	△1.7	
		大豆	23.7	人 力	13.5	3.0	△10.5	
			[1.0]	機械力	5.8	2.3	△3.5	
	畑	かんしょ	0.2	人 力				
			[0.2]	機械力				
		さやえんどう	0.1	人 力				
			[0.1]	機械力				
		玉ねぎ	0.5	人 力				
			[0.4]	機械力				
		さといも	0.5	人 力				
			[0.5]	機械力				
		すいか	0.1	人 力				
			[0.1]	機械力				
		冬春なす	0.2	人 力				
			[0.2]	機械力				
		いちご	0.5	人 力				
			[-]	機械力				
	果樹園	レモン	0.8	人 力				
			[0.7]	機械力				
	計		80.8					
			[58.5]					

6 級地別土地利用区分
該当なし

7 土地配分計画
該当なし

第3節 用水計画

1 計画基準年

昭和22年 国営新矢作川用水土地改良事業計画による。

2 計画かんがい方式

かんがい方式

水田 パイプラインによる貯留かんがい方式

かんがい期間

水田（早期） 5月1日～7月31日（代掻5日間）

水田（普通期） 5月26日～8月25日（代掻5日間）

3 計画用水系統

（次頁 計画用水系統図 参照）

4 計画用水量

（1）かんがい用水

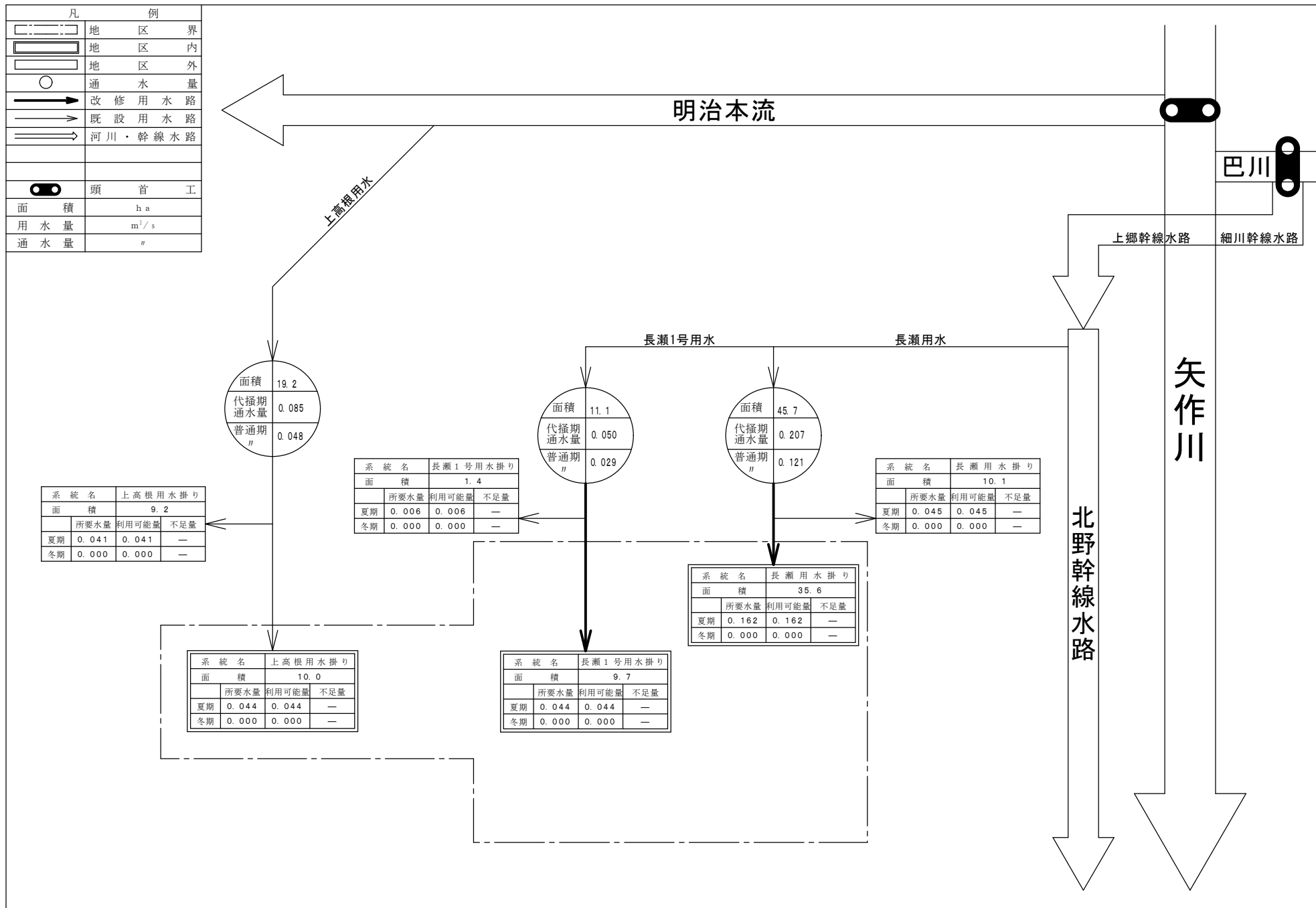
（第10表-1-1）

項 目 系統名	種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費 水量 (m^3/s)	損 失 率 (%)	粗用水量		備考
		事業名		普通期 計 平 均 単 位 用 水 量 (mm/日)	代掻期 計 平 均 単 位 用 水 量 (mm/日)	面 積 (ha)	1 日 当 り計画 平均か ん水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	1 日 当 り計画 平均か ん水深 (mm/日)	平均 間断 日数 (日)	面 積 (ha)	計 平 均 単 位 用 水 量 (mm/日)	面 積 (ha)			平 均 大	最 大	
		経営体 育成基 盤整備 事業	計																
長瀬	農業 用水	45.3	45.3	19.0	140.0	45.3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.185	10	0.120	0.206	
計		45.3	45.3			45.3			-			-		-	0.185		0.120	0.206	

（2）営農飲雑用水

該当なし

計 画 用 水 系 統 図



5 水源計画
 (1) 水利用計画

(第10表-2)

項目 区分	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源 工種	備考
					水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足水量	全不足水量	水源名	水量		
	a (千 m^3)	b (千 m^3)	c=a-b (千 m^3)	d=c/(1- α) (千 m^3)		e (千 m^3)	f (千 m^3)	g=c-f (千 m^3)	h=d-e (千 m^3)		(千 m^3)		損失率： α
経営体育成基盤整備 事業	1,299.3	106.2	1,193.1	1,325.7	矢作川 巴川	1,325.7	1,193.1	-	-	矢作川 巴川	1,325.7	既設利用	$\alpha=10\%$
計	1,299.3	106.2	1,193.1	1,325.7		1,325.7	1,193.1	-	-		-		

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

該当なし

(イ) 井堰及び自然取入口

該当なし

(ウ) 揚水機

該当なし

(エ) 用水路

(第10表-6)

(第10表-6)

項 目 名 称	かんがい面積(ha)		最大通水量	延 長	構 造	備 考
	事 業 名					
	経営体育成 基盤整備事業	計				
用水路	45.3	45.3	0.306	7.7	塩ビ管	φ100～350

(オ) その他の水源施設

該当なし

(3) 水質水温

該当なし

第4節 排水計画

1 計画基準雨量

日雨量 171.6mm/日 (1/10年確率) 岡崎観測所 (1891年～2024年) の
既往134年間の観測記録から岩井法により確率雨量を求める。 (ただし1950年は欠測)
R24 = 171.6mm/日 R4 = 70.1mm/4hr

2 計画排水方式

自然排水 . . . 4時間雨量・4時間排除

3 計画排水系統

(次頁 計画排水系統図 参照)

4 計画排水量

(第11表-1)

項 目 排水 系統名	受益面積 (ha)		流域面積		基準 雨量	降雨による直接単 位流出量		基底流出量		全排水量 (m3/s)			単位排出量		備考
	事業名		(km2)		(mm)	(m3/s/km2)		(m3/s/km2)		山地	平 地		(m3/s/km2)		
	経営体育成基 盤整備事業	計	山地	平地	4時間雨量 4時間排水	山地	平地 上段:田 中段:畑 下段:その他	山地	平地		自然排水	機械排水	山地	平地 上段:田 中段:畑 下段:その他	
長瀬	58.4	58.4	-	0.917	70.1	-	2.434 2.434 3.894	-	-	-	1.573	-	-	2.434 2.434 3.894	
計	58.4	58.4	-	0.917	70.1	-	2.434 2.434 3.894	-	-	-	1.573	-	-	2.434 2.434 3.894	

5 排水対策

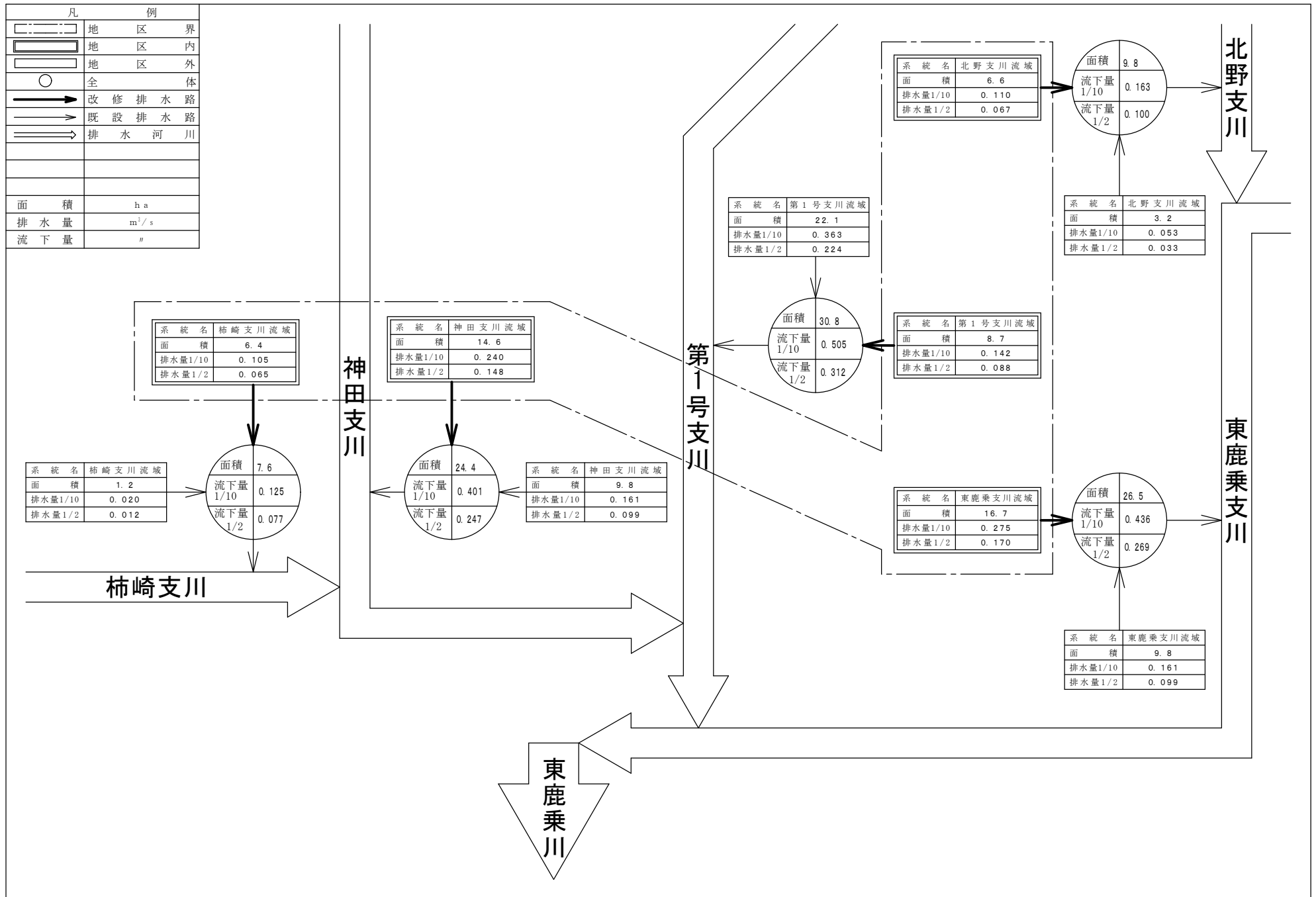
(1) 排水水門

該当なし

(2) 排水機

該当なし

計画排水系統図



(3) 排水路

(第11表-4)

項 目 名 称	流域面積 (km2)	受益面積(ha)		計画排水量 (m3/s)	延長(km)	構 造	排水本川			備 考
		事業名					名 称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		経営体育成 基盤整備事業	計							
支線排水路	0.917	58.4	58.4	1.573	5.7	組立柵渠Ⅱ型	-	-	-	改修
計	0.917	58.4	58.4	1.573	5.7					

(4) その他

該当なし

6 たん水検討

該当なし

第5節 道路計画

1 道路及び索道

(1) 道路

(第12表-1)

項 目 路線名	幅(有効) (m)	× 延長 (km)	構 造	既設道路との関係	備 考
支線道路	5.0 (4.0)	× 9.4	砂利舗装	市道への連絡	区画整理

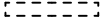
(2) 索道

該当なし

2 路線配置図

(次頁 計画道路配置図 参照)

計画道路配置図

凡	例
	地区界
	幹線道路
	現況道路



第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 洪水調整計画

該当なし

第8節 干拓計画

該当なし

第9節 農用地整備計画

1 区画整理

これまでに地区内は10a区画に整備されているものの、小区画であり、農道も狭小であることから、大型機械導入及び効率的な営農の妨げとなっている。また、用排水路の老朽化が著しく水管理や維持管理に多大な労力を費やしているとともに、漏水により、農業用水の確保に支障が生じるなど営農に支障をきたしている。

このため、本事業による区画整理や農道、用排水路を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農地中間管理機構を介して担い手への農地集積の加速化を図り、本地域の豊かで競争力ある農業の実現に資するものである。

(1) 区画の形状

(第16表-1)

長辺 × 短辺 (m)		区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
水田	50×100	0.5	30.4	52.1	－	
	40×75	0.3	22.6	38.7	－	
	50×40	0.2	2.3	3.9	－	
畑 果樹園	50×60	0.3	2.0	3.4	－	
	50×40	0.2	1.1	1.9	－	
計			58.4			

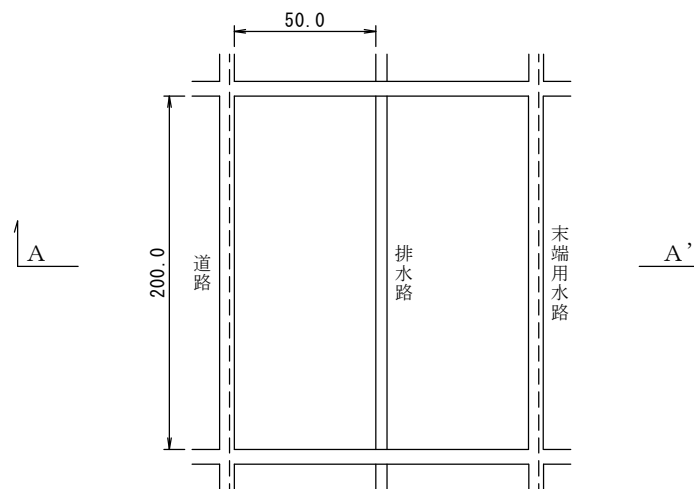
(2) 表土扱い 該当なし

(3) 末端道水路配置図 (次頁 末端道水路配置図参照)

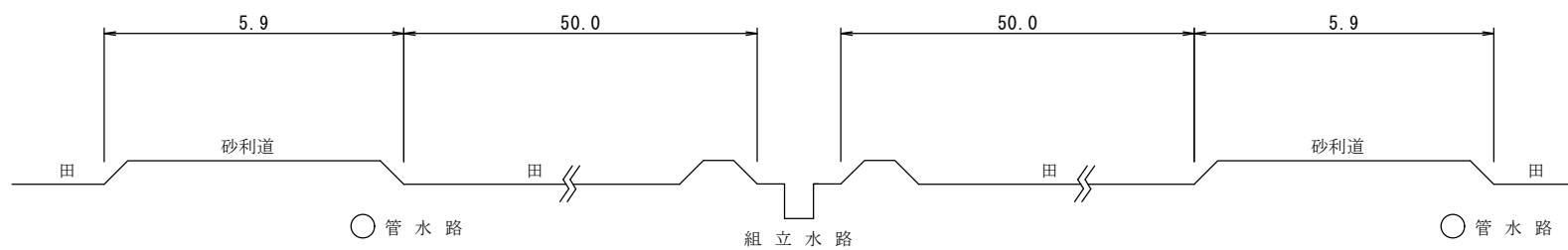
末端道水路配置図

(単位：m)

標準区画（水田）



A - A' 断面



2 暗渠排水
(1) 暗渠排水

(第16表-3-1)

項目 区分	面積 (ha)			土 壤 統 (区) 分	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 (ℓ/s/ha)	計画後の 地下水位 (m)	集水渠出口 以下の 排水方式	備 考
	事業名								
	経営体育成基盤 整備事業		計						
湧水暗渠	2.0		2.0	寺津統、開正統	-	-	-	自然排水	
計	2.0		2.0	寺津統、開正統	-	-	-	自然排水	

(2) 心土破碎
該当なし

3 客 土
該当なし

4 農地保全
該当なし

第10節 老朽ため池改修計画

該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1 貯水池
該当なし

2 頭首工
該当なし

3 揚水機
該当なし

4 用水路

(第17表-4)

区 分 \ 項 目	かんがい面積(ha)		通水量 (m ³ /s)	延長(km)			構造	勾配 (%)	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
	経営体育成基 盤整備事業	計								
用水路	45.3	45.3	0.001～0.104	－	7.7	7.7	塩ビ管 φ 100～350	0.05～0.92	制水弁等	改修
計	45.3	45.3		－	7.7	7.7				

5 その他かんがい施設
該当なし

第2節 排水施設

1 排水水門
該当なし

2 排水機
該当なし

3 排水路

(第18表-3)

区 分 \ 項 目	かんがい面積(ha)		排水量 (m ³ /s)	延長(km)			構造	勾配 (%)	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
	経営体育成基盤 整備事業	計								
支線排水路	58.4	58.4	1.573	5.7	－	5.7	組立柵渠Ⅱ型	0.10	－	改修
計	58.4	58.4		5.7	－	5.7				

- 4 その他排水施設
該当なし

第3節 道路及び索道

- 1 道 路
(1) 道路の総括表

(第19表-1)

項 目 路線名	路線名	幅 (有効) × 延長 (m) (km)	構 造	付帯構造物			最急 こう配 (%)	同左の 延 長 (m)	最 小 曲線半径 (m)	備考
				名称	構造	数量 (箇所) (箇所)				
農道	56路線	5.0 (4.0) × 9.4	砂利舗装	-	-	-	8%以内	9,406	-	
計	56路線	5.0 (4.0) × 9.4						9,406	-	

- (2) 道路主要構造物
該当なし

- 2 索 道
該当なし

第4節 農用地造成

該当なし

第5節 洪水調整施設

該当なし

第6節 干拓施設

該当なし

第7節 農用地整備施設

1 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工区名	面積(ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画	土量(m ³)	面積(ha)	土量(m ³)	
長瀬	30.4	50×100	63,796	-	-	水田
	22.6	40×75	50,231	-	-	水田
	2.3	50×40	6,943	-	-	水田
	2.0	50×60	6,460	-	-	畑 樹園地
	1.1	50×40	4,111	-	-	畑 樹園地

(2) 末端用水路等

該当なし

(3) 末端排水路等

該当なし

2 暗渠排水

(第23表-4-1)

区分	項目	面積(ha)		集水渠				排水渠					集水渠出口以下の排水施設			備考
		事業名		勾配	管種	管径(mm)	延長(m/ha)	勾配	管種	管径(mm)	深さ(m)	延長(m/ha)	名称	構造	数量(m/ha)	
		経営体育成 基盤整備事業	計													
長瀬	2.0		2.0	1/200	塩ビ管	65	-	1/800	ポリエチレン管	50	0.7	-	水閘	カラー水閘	3	
計	2.0		2.0													

3 客土

該当なし

4 除礫
該当なし

5 農地保全
該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

該当なし

第6章 附帯工事計画

用地買収及び補償費

(1) 用地買収
該当なし

(2) 補償費

電柱補償・・・・・・・・	17 本
市水道管補償・・・・・・・・	1,889 m
市下水管補償・・・・・・・・	939 m
電話線補償・・・・・・・・	394 m
ガス管補償・・・・・・・・	438 m

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

- 1 工期 着手 令和8年度
完了予定 令和17年度（予定）

2 工事の年度割予定

年度 工種	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	備考
区画整理											

第8章 環境との調和への配慮

1 配慮の対象

地区内の農地にはカエル類の希少種等の生息が確認されており、良好な生物生息空間が確保されているため、生息環境の保全に配慮していくものとする。

2 配慮の方法

本地区は、岡崎市田園環境整備マスタープランにおいて全域環境配慮区域になっている。施工時期は保全対象生物が少ない時期を選ぶこととし、また、濁水及び土砂流出の防止を図り、周辺環境に配慮する。
また、合流樹にカエル脱出用のスロープを設置することにより希少種の両生類へ配慮する。

第9章 管理の要領

県営経営体育成基盤整備事業長瀬地区により造成される土地改良施設のうち、用水施設、排水施設及び道路施設については岡崎市、農地及びこれらに付帯する施設については各受益者がそれぞれ管理する。

第10章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

生産基盤整備事業による高生産性農業が見込まれる大規模農地を整備することにより、将来の農業生産を担う経営体への農用地利用集積を積極的に進め、土地利用の合理化を図る換地計画を作成するものとする。

第2節 換地区の設定

1 換地区の名称、所在、面積

(第25表-1)

換地区名	換地区の所在地	面積 (ha)
長瀬	岡崎市北野町地内外	66.5

2 換地区を設定する理由

該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1 従前の土地の地積の基準

(第25表-2)

換地区名	地 積 の 基 準
長瀬	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、土地改良事業計画決定の日から6ヶ月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接地所有者の同意書を添付して申出があった場合は、その申出のあった地積とする。この場合、測量等にかかる費用は本人負担とする。

2 用途別予定地積

(単位：ha) (第25表-3)

用途 (取得 予定者)		非農用地区域外に換地する土地													非農用地区域に換地する土地										機能交換に係る土地				一般 国 公 有 地	総 合 計
		田	畑	山林・ 原野	その他	通常事業施行地 域に含める土地 (令第1条の9() 書き)			計	本事業によって 生ずる土地改良 施設用地			創設農用地	合計	特定用途 地			異種目換地	創設非農用地					合計	国	県	市町村他	合計		
						土地 改良 施設	その他	小 計		改良区	その他	計			宅 地	その他	計		農業経営合理化 施設用地	生活上・経営上 必要な施設用地	公用・公共用 施設用地	宅地等	計							
換地区名	前後																													
長瀬	従前地	58.6	2.2	-	-	0.7	-	0.7	61.5	-	-	-	-	61.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0	5.0	-	66.5
	換地	55.3	3.1	-	-	0.7	-	0.7	59.1	-	-	-	-	59.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	7.4	-	66.5

3 農用地集団化の方針

(第25表-4)

（第26表）

区 分 換地区名	地帯別・グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
長瀬	地目別集団化	水田及び畑の区域を設定し、原則として各人の従前の土地が最も密集した位置を中心に、おおむねその付近に集団化する。	1～2団地	移動畦畔
	農用地利用集積促進区域別集団化	経営体への農用地の利用集積を積極的に図る区域を設定する場合には、当該区域に関する権利者の承諾を得るようにするとともに、当該区域内に換地が定められることを希望する者は、できるだけ当該区域内に換地が定められるようにする。		

- 4 非農用地換地の方法
該当なし

第4節 土地の評価及び清算の方法

- 1 評価の方法
項目別配点方式

土地の自然条件及び利用条件等を調査項目とし、それらの条件の比重によって100点を配分して評価採点基準表を作成し、換地推進部会がその項目内における条件の程度を点数に置き換え、項目毎に採点をし、その合計点数からその土地の等位を定め、その等位から価格を評定する。

- 2 清算の方法
比例地積清算

従前、換地の評価額に基づき、その事業による価格上昇分を増加額として算出する。それを1㎡当たりの増加額に割り戻す事により各人別に換地交付基準額を算出し、各人の換地評価額を比較し清算する。

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表-6)

区 分 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の決定予定年度	換地処分予定年度	備考
長瀬	令和 15 年度	令和 16 年度	令和 16 年度	

第6節 換地処分の時期に関する特則

換地区の全部について区画変更工事が完了し、確定測量が行われたときは、土地改良法第89条の2第10項において準用する同法第54条第2項本文の規定にかかわらず、換地処分を行うことができる。

第11章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

事業名 区 分		経営体育成基盤整備事業 (千円)	備 考
事業費 ^{※1)}		2,161,000	
事務的経費 ^{※2)}		133,000	
計		2,294,000	
(関連 参考) 事業	国営矢作川総合第二期地区	74,276	基幹かんがい

令和7年度単価。消費税については10%にて算定。(ただし、物価変動により将来変動することがある。)

※1) 事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2) 事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善
局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

第12章 効 用

(第27表)

事業名	区 分 \ 項 目	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額（千円）		備 考
				うち機能向上分	
経営体育成基 盤整備事業	作 物 生 産 効 果	41,279	14,015	14,015	
	品 質 向 上 効 果	1,763	-	-	
	営 農 経 費 節 減 効 果	89,924	93,160	93,160	
	維 持 管 理 費 節 減 効 果	△705	104	104	
	営農に係る走行経費節減効果	4,648	-	-	
	地 籍 確 定 効 果	1,709	-	-	
	景 観 ・ 環 境 保 全 効 果	545	-	-	
	「田んぼダム」の取り組みに係る水田貯留機能向上効果	10,672	-	-	
	国産農産物安定供給効果	8,359	-	-	
	計	158,194	107,279	107,279	総便益額 2,813,241千円

令和7年度単価

＜参考＞	①当該事業費	1,662,112 千円		
	②その他費用	676,703 千円		
	③総費用（現在価値化）	2,338,815 千円		
	④年償還額	- 千円/年		
	④'うち機能向上分	- 千円/年		
	⑤年総効果（便益）額	158,194 千円/年		
	⑥現況年総農業所得額	19,826 千円/年		
	⑦年総増加農業所得額	107,279 千円/年		
	評価期間	50 年		
	割引率	0.04		
	⑧総便益額（現在価値化）	2,813,241 千円		
	⑨総費用総便益比（⑧÷③）	1.20	≥	1
	⑩総所得償還率（④÷⑥）	-	≤	0.2
	⑪増加所得償還率（④'÷⑦）	-	≤	0.4

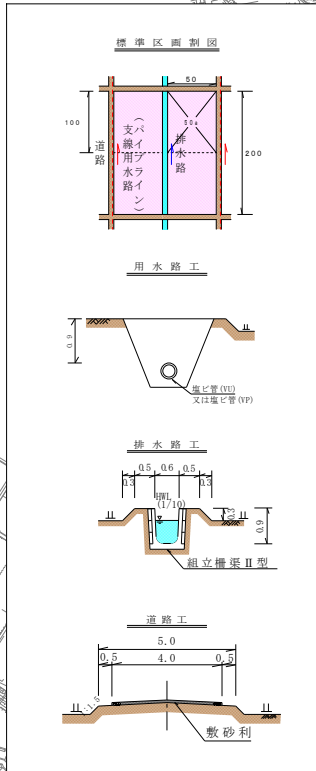
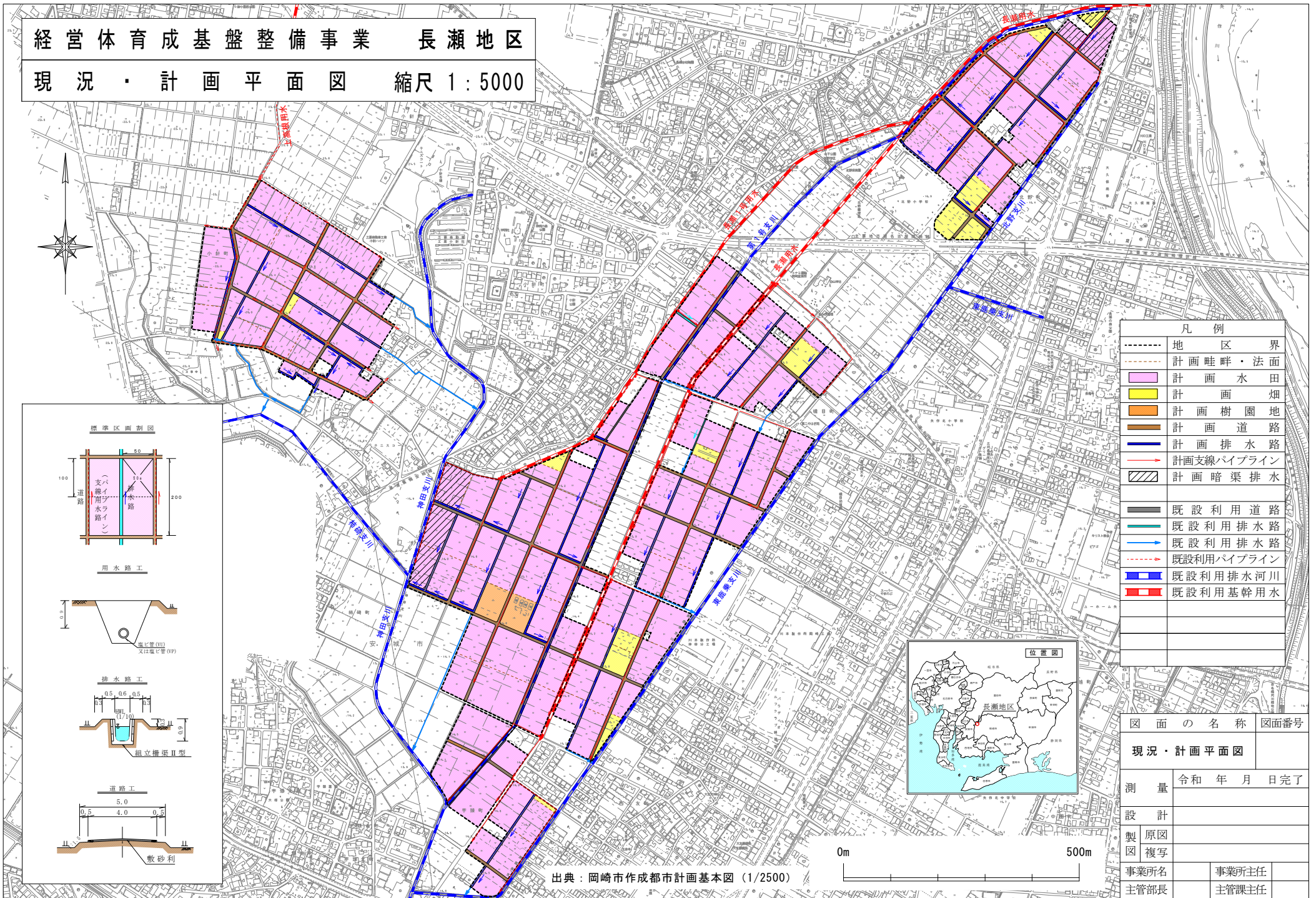
第13章 関連する事業

区分	事業名	事業主体	受益面積 (ha)	事業内容
国営	国営矢作川総合第二期地区	農林水産省	5,441	基幹かんがい

第14章 現況・計画平面図

- 1 現況平面図
- 2 計画平面図及び土地利用計画図
- 3 主要構造図

経営体育成基盤整備事業 長瀬地区
現況・計画平面図 縮尺 1:5000



凡 例	
-----	地 区 界
-----	計画畦畔・法面
■	計画水田
■	計画樹園地
■	計画道路
■	計画排水路
---	計画支線パイプライン
■	計画暗渠排水
---	既設利用道路
---	既設利用排水路
---	既設利用排水路
---	既設利用パイプライン
---	既設利用排水河川
---	既設利用基幹用水

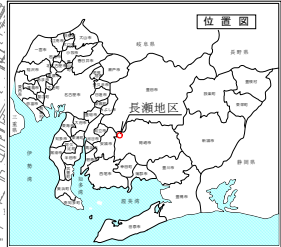


図 面 の 名 称		図面番号
現況・計画平面図		
測 量	令和 年 月 日完了	
設 計		
製 原図		
図 複写		
事業所名	事業所主任	
主管部長	主管課主任	

出典：岡崎市作成都市計画基本図（1/2500）